

定例記者会見（2月）次第

平成29年2月6日（月）

午前11時～

市長公室広報広聴係

<出席者>

酒田市／市長、副市長、
市長公室調整監、企画振興部長、地方創生調整監、
商工観光部長
酒田記者クラブ／各社
幹事社／毎日新聞・YTS（1月・2月）

1 開 会

(1) 発表事項

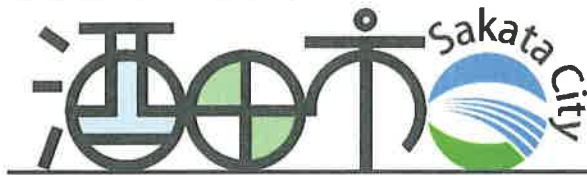
- ① 第23回酒田市土門拳文化賞受賞者のお知らせ（社会教育文化課）
- ② 旧割烹小幡の安全対策などについて（観光振興課）

(2) 懇談・フリー質問 [幹事社]

2 閉 会

◆その他配布資料

- ① 酒田市十里塚風力発電事業（仮称）に係る環境影響評価準備書を縦覧します（政策推進課）
- ② 白崎資金酒田市スポーツ優秀選手表彰式を開催します（スポーツ振興課）
- ③ 株式会社ANA総合研究所との連携「酒田マルシェ」を開催します（観光振興課）
- ④ 酒の酒田の酒まつり特別企画「雛バル」を開催します（観光振興課）
- ⑤ 酒田市観光ポスターが完成しました（観光振興課）



平成 29 年 2 月 6 日

酒田記者クラブ加盟 各位

第 23 回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせ

「酒田市土門拳文化賞」は、本市出身の世界的な写真家・土門拳の芸術文化への功績を記念し、写真文化、写真芸術の振興を目的に平成 6 年 6 月に創設された賞です。

23 回目を迎えた今回は、全国 36 都道府県の 131 人から 143 テーマの作品が寄せられました。

1 月 16 日（月）、東京において選考委員会を開催し、次の通り受賞者が決定したので、お知らせいたします。

1. 選考委員

江成 常夫 氏	写真家	九州産業大学名誉教授
大西 みつぐ 氏	写真家	大阪芸術大学客員教授
藤森 武 氏	写真家	(公財) 土門拳記念館学芸担当理事

2. 選考結果

○酒田市土門拳文化賞（1 点）

「横須賀ブルー ペルリ 164 年目の再上陸を想起する」（カラー 30 枚組）
ストラーン 久美子 氏（61 歳）神奈川県横須賀市 会社員

○酒田市土門拳文化賞奨励賞受賞作品（3 点、受付順）

- （1）「現在を生きる」（モノクロ 30 枚組）
高田 啓一 氏（68 歳） 鳥取県鳥取市 無職
- （2）「モノクロのブルース」（モノクロ 30 枚組）
上出 優之利 氏（54 歳） 東京都新宿区 個人事業主
- （3）「お良さん」（カラー 30 枚組）
岡田 治 氏（57 歳） 和歌山県田辺市 自営

3. 今後のスケジュール

- （1）授賞式 3 月 5 日（日）午前 10 時～ 会場：土門拳記念館
- （2）受賞作品展
3 月 4 日（土）～4 月 16 日（日） 土門拳記念館
6 月 6 日（火）～19 日（月） 新宿ニコンサロン（東京都新宿区）

4. 選考委員講評

<総 評>

アメリカ・トランプ大統領の出現は、世界を震撼させ、国内では原発事故による放射能汚染が明日を暗くしている。このように写真は時代や社会の混沌を鏡のように写し出し、未来に向けての、“語り部”の役割を果たしている。

土門拳文化賞は土門拳が確立した、「リアリズム写真」の精神にのっとり、言わば写真本来の力である記録性を基に、新たな地平を切り開くことを目的としている。

今年 23 回を迎え、賞の方向性と、かたちが整い、それを踏まえた国内はじめ、アジア、欧米にモチーフを求めた多彩な作品が寄せられた。その全体を大雑把に分けると、祭事を捉えた作が目を引き、アジアを主にした海外の作も思いのほか多かった。祭りも異文化も視覚的に豊かだからだろうか。

そうしたなか、トランプ米大統領の言動が波紋を広げている時、70 年余りにわたってなお、アメリカの金縛りになったままの基地問題を、鋭く突いたストラーン・久美子さんの作は、時節と相まって秀逸だった。

江 成 常 夫

<土門拳文化賞受賞作品について>

「横須賀ブルー ペルリ 164 年目の再上陸を想起する」 ストラーン 久美子 氏

「1853 年（嘉永 6 年）アメリカ使節ペリー艦隊を率いて浦賀水道に来る。翌年ペリー久里浜に再び来る。日米和親条約を締結する。」と歴史教科書には記してある。

ストラーン久美子さんの「横須賀ブルー」はこの大テーマの今を横須賀周辺で映像化した。

久美子さんは高校生の時に渡米し 20 年間アメリカにいたという。帰国後、座間基地で 13 年、今は横須賀の基地で 10 年働き、実感した日米のカルチャーの違いを米兵や日本人に教えている。

自宅の窓から沖に行く黒船が見える。基地内の撮影は自由に写せるという利点を生かしている。

写真歴は 4 年足らず。何処にも応募せず、満を持して、今回土門拳文化賞に応募した。はっきりとしたポリシーを持って写した写真は強い。お世辞にもいい写真がたくさんあるとはいいがたい。それ以上に、写真の実在性やリアリティがある。

藤 森 武

<土門拳文化賞奨励賞受賞作品について>

◆「^{いま}現代を生きる」 高田 啓一 氏

写真は「時間」を伝え、語り、万人に思索を深めるメディアである。作者は写真家であるとともに（退職したとはいえ）どこまでも「教師」であり、聾学校の教え子たちの前向きに歩む姿を優しく見つめている。鳥取県内だけでなく、移り住んだ地も訪ね、素朴な撮影ながらそこで生きている証をしっかりと刻印した。人と風景が静かに寄り添った写真はこれほどまでに美しいのかと思わせる労作である。

◆「モノクロのブルース」 上出 優之利 氏

作者は音楽畑の方であり、写真のキャリアは決して長いわけではない。しかし、ある種の勘どころ、いわばリズムカルな身体の動きに任せスナップショットとして「いま」を驚掴みにしている。東京の繁華街を中心に連なる荒々しくエキセントリックな光景は、社会風俗の記録に留まらず、この時代、この国がどこに行こうとしているのかという本質的な問題を私たちに投げかける。こうしたエネルギーな仕事もまた写真ならではの表現だ。

◆「お良さん」 岡田 治 氏

なんとたおやかな写真群だろうか。写真プリントとして美しいということもあるが、ここに写っている「お良さん」の笑顔は、大正、昭和、平成という時代を貫く、人の誠実な暮らしぶりが滲み出ているところの見事な美しさだ。野良仕事、こんにやく作りなど、懐かしい風景に写真を見るすべての人が目を細めるだろう。何度も通い、身内同然に接し「人間」をとらえてきた作者の努力が光る。写真も暮らしもこうした淡々とした積み重ねから成り立つもの。

大 西 みつぐ

5. 応募状況

年度	回	応募者数 (男・女)	テーマ数 (モノクロ・カラー・混合)	作品枚数	都道府県
H28	23	131 (111・20)	143 (56・75・12)	3,879	36
H27	22	135 (110・25)	143 (52・83・8)	3,892	35
H26	21	117 (98・19)	130 (64・62・4)	3,446	33
H25	20	128 (105・23)	140 (50・78・12)	3,632	41
H24	19	147 (121・26)	155 (63・79・13)	3,981	36
H23	18	156 (141・15)	161 (53・102・6)	4,179	41
H22	17	144 (127・17)	151 (68・79・4)	3,867	37
H21	16	136 (107・29)	154 (53・93・8)	2,979	35
H20	15	127 (112・15)	134 (43・89・2)	2,902	36
H19	14	147 (121・26)	155 (56・94・5)	3,442	40
H18	13	101 (81・20)	116 (57・53・6)	2,861	30
H17	12	111 (87・24)	117 (66・48・3)	2,999	32
H16	11	124 (95・29)	124 (51・69・4)	2,848	36
H15	10	110 (92・18)	120 (56・61・3)	2,849	29
H14	9	103 (84・19)	109 (49・54・6)	2,808	30
H13	8	136 (114・22)	142 (68・68・6)	3,311	35
H12	7	115 (97・18)	124 (75・47・2)	3,006	38
H11	6	119 (96・23)	127 (67・58・2)	2,739	34
H10	5	139 (108・31)	150 (74・71・5)	3,134	36
H9	4	138 (110・28)	151 (82・67・2)	3,144	37
H8	3	151 (124・27)	170 (80・86・4)	2,835	34
H7	2	104 (93・11)	114 (50・59・5)	1,938	34
H6	1	108 (103・5)	130 (62・66・2)	2,453	37

酒田市教育委員会社会教育文化課 (担当: 阿部)

〒998-0034 山形県酒田中央西町 2-59

☎(0234)24-2982 FAX(0234)24-5780

E-mail: shakai@city.sakata.lg.jp

第23回酒田市土門拳文化賞応募者数（地域別）調

北海道 1 0.8%	北海道 1	近畿 23 17.6%	滋賀県 1 京都府 4 大阪府 7 兵庫県 5 奈良県 4 和歌山県 2
東北 24 18.3%	青森県 3 岩手県 2 宮城県 6 秋田県 3 山形県 9 福島県 1	中国 6 4.6%	鳥取県 2 島根県 岡山県 1 広島県 3 山口県
関東 49 37.4%	茨城県 2 栃木県 2 群馬県 3 埼玉県 10 千葉県 1 東京都 17 神奈川県 13 山梨県 1	四国 5 3.8%	徳島県 1 香川県 2 愛媛県 1 高知県 1
信越 5 3.8%	長野県 2 新潟県 3	九州 7 5.3%	福岡県 2 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 2 宮崎県 鹿児島県 2
北陸 0.0%	富山県 石川県 福井県	沖縄 0.0%	沖縄県
東海 11 8.4%	岐阜県 3 静岡県 6 愛知県 2 三重県	計 131人	
(36都道府県)			
応募テーマ	1テーマ 125人 (125作品) 2テーマ 5人 (10作品) 8テーマ 1人 (8作品)		
143テーマ/3,879枚 (1テーマ平均 27.13枚)			

第23回酒田市土門拳文化賞受賞作品

「横須賀ブルー ペルリ 164年目の再上陸を想起する」

ストラーク久美子（神奈川県横須賀市）

※代表作1点を掲示する場合はこちらの作品をご使用ください。



ストラーク久美子氏



※写真データが必要な場合はご連絡
下さい。酒田市教育委員会
社会教育文化課（担当：阿部）
☎(0234)24-2982
FAX(0234)24-5780
E-mail : shakai@city.sakata.lg.jp

〔解 説〕

黒船の砲艦外交から 163 年、ペルリ（幕府文書・以下一般名辞としてペリーを用いる）の恫喝外交は、良くも悪くも、形を変えながら続いてきました。ペリー提督、マッカーサー元師、そして今、黒船を想起させるトランプ新大統領の未知数の力が日本に忍び寄っています。寛容と多様性に重きを置いてきたアメリカという国のあり方を不透明にしています。米軍基地で長く働いている私の実感です。

ペリーは日本の土を始めて踏んだ刹那に「ペリーアイランド」と口にしたといわれます。アメリカ海軍第 7 艦隊所属の空母や艦船が入港して、私のオフィスの窓を覆うたびに、その威丈高な光景が「私の島」と感慨を漏らしたペリー上陸と重なります。それは、新大統領の強権的な発言にもつながるのです。

日本に開港を迫る手段を「威圧」が最も有効と計画したペリーです。その一方で、黒人の人権擁護の立場をとった人でもありました。日本上陸の際、側近には複数の黒人を就けていたことは、アメリカの多様性の現れでした。

1854 年、日本は不平等な和親条約を締結しました。しかし国の母体を失うことはありませんでした。古来、よろずの神を受容して祭ってきたように、幕府はペリーというひと柱の渡来の神を受け入れたのです。

街のいたるところで渡来神と戯れる日本人の姿が見られるのが横須賀の町です。この平和な光景はアメリカの神がもたらしたと、米軍人たちは心の内で確信しています。安全保障条約においてアメリカが日本を護っている、という声は、今後のアメリカ国内で大きくなっていくと予感します。東アジアが過去になく緊張をはらむようになった今、そしてトランプ氏が新大統領に選出された今、日本の軍備拡張につながらないのか、私には一抹の不安がきざしています。

アメリカと日本、二国にどのような未来が待ち受けているのか、改めてペリー上陸の意味を考えています。

ストラーン 久美子

第23回酒田市土門拳文化賞受賞者 ストラーン久美子

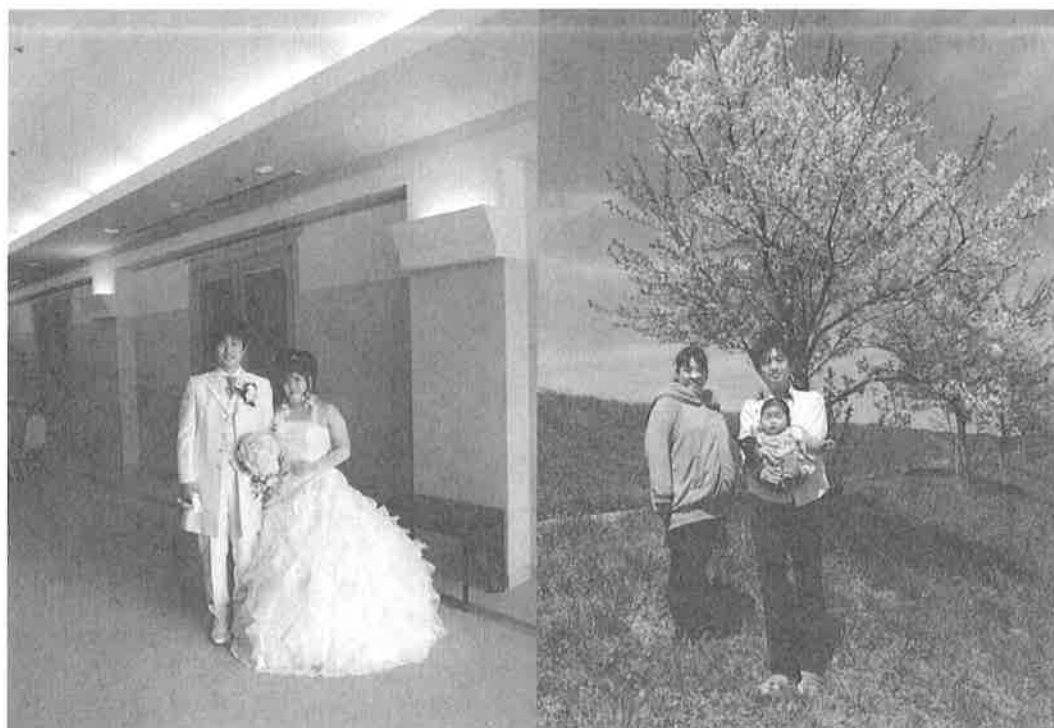
略 歴

○活動歴

- ・1955年東京生まれ。
- ・1974年アメリカ高校留学を機に米国在住20年を経て1995年に帰国。
米軍基地日本人従業員として採用され現在に至る。
- ・2013年6月、感動させられたある一枚の写真との出会いから一念発起し初めてのカメラを購入。以後、横須賀を基点に歴史、文化、人に焦点を当てた撮影活動を続けている。
- ・2015年9月 「横須賀ブルー」（初版蛇腹本）作成
- ・2016年1月 「浦賀水道観音崎（Cape Kannon）」Office Hippo社より出版
- ・2016年5月 招待客のみの個展、「ストラーン久美子写真展」をギャラリー・カフェ扇（横須賀）にて開催

第23回酒田市土門拳文化賞奨励賞受賞作品（3点）

「^{いま}現在を生きる」高田 啓一（鳥取県鳥取市）



〔解説〕

33年勤務した鳥取聾学校を定年退職後、卒業生たちの暮らしぶりが気にかかり、訪ねて行って初めて撮影したのが約5年前。そして、5年振りに再度49名を訪ね撮影し、日常生活で感じていることなども聞きました。撮影にあたっては、可能な限り住んでいる環境、風景を写し込むことを意識し、家族全員を撮影するように心がけました。

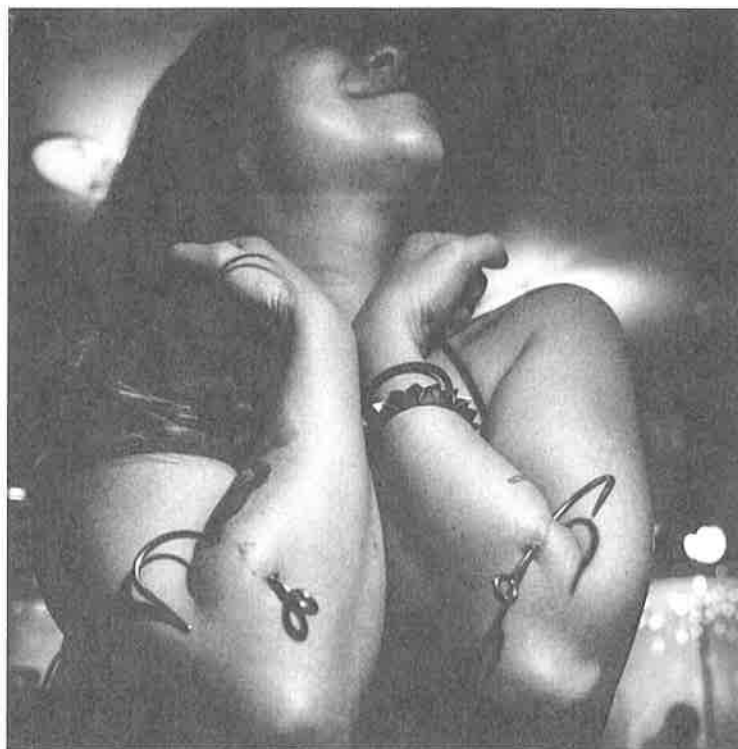
卒業生の話を聞く中で、「手話言語条例」が制定されてから、簡単な手話を使う方や筆談をしたりゆっくり話したりする方が増え、前途に明るい兆しが見えてきたようです。また、趣味やスポーツに打ち込み国際大会や全国大会に出場している者もいます。

しかし、職場では、非正規雇用が多く、不安定な身分のまま意思疎通も十分に取れず、ストレスの中で働いているという声も聞きました。

懸命に生きている卒業生たちの姿を、多くの方々に知っていただきたくて撮影しました。

高田 啓一

「モノクロのブルース」 上出 優之利（東京都新宿区）



〔解 説〕

作品コンセプト

- ・都市生活者のB面（裏側、本音）を垣間見るような写真
- ・匂いと音が聴こえてくるような写真

この作品は、「都市生活者のB面」を基本コンセプトに、激動する都会の片隅で、力強く生きる人々の素顔や本音を切り撮ったスナップ集です。

撮影場所は東京の夜のストリートを中心に、クラブやバー、飲み屋など。

そこにいる人やモノから溢れ出るエネルギーや暖かさ、人情やちょっとした可笑しみなどをお楽しみいただけるよう努めました。

Statement

猛スピードで過ぎ去る都会の時間。

自転車に乗ったまま切りまくる路地裏のシャッター。

獲物はどこだ？

誰もが見過ごしてしまう 1/250 秒のアナザーワールド。

とるに足りない光景を乱雑に撮る、獲る、盗る。

夜の街に色は無い。

灰色の闇と人口発光の煌めきがあるだけだ。

そこに横たわるのは明と暗、それは表と裏が交錯したもうひとつの世界。

ようこそ「モノクロのブルース」へ

今日は見慣れた街のもう一つの顔を存分にお楽しみください。

上出 優之利

「お良さん」 岡田 治（和歌山県田辺市）



【解 説】

人里離れたお良さんの自宅は、過疎の集落からさらに山間部に分け入ったところにある。

夫を早くなくした彼女は、女手一つで娘二人と息子一人を育てあげた。

子供達は遠方住まいであり、今彼女は一人で暮らしている。

昨今足腰が弱くなり、松葉杖がないと歩くこともおぼつかないにもかかわらず、農作業を今もこなしていることには驚かされる。

なにより人柄が底抜けに明るい。

現在お良さんは94才。

私は、お良さんの人柄に惹かれ5年ほど前から彼女を撮り続けている。

いつまで彼女を撮影出来るのかわからないが、彼女の人柄、暮らしぶりは現在の超高齢化社会の中で、「人間の生き方、幸せとはなにか」を私に考えさせ続けている。

岡田 治

酒田市土門拳文化賞選考委員 略歴

●江成常夫（えなり・つねお）（第1回～）

《略歴》

1936年（昭和11年）神奈川県相模原市生まれ。
1962年 東京経済大学卒業。同年、毎日新聞社入社。
1974年 フリーランサーとなる。
現在、九州産業大学名誉教授。

《著書》 1976年 「ニューヨークの百家族」（平凡社）
1981年 「花嫁のアメリカ」（講談社）
1995年 「記憶の光景・十人のヒロシマ」（新潮社）
「まぼろし国・満州」（新潮社）
2005年 「レンズに映った昭和」（集英社新書）
2006年 「生と死の時」（平凡社）
2011年 「鬼哭の島」（朝日新聞出版）ほか多数

《受賞》 1977年 日本写真協会新人賞
1981年 第6回木村伊兵衛写真賞
1985年 第4回土門拳賞受賞
1995年 毎日芸術賞
2001年 神奈川文化賞
2002年 紫綬褒章
2010年 旭日小綬章
2015年 酒田市特別功労表彰

●大西みつぐ（おおにし・みつぐ）／本名：貢（第7回～）

《略歴》

1952年（昭和27年）東京都生まれ。
東京総合写真専門学校卒業。同校研究室、教務室勤務。2005年まで同校の専任講師を続ける。また、東京造形大学、武蔵野美術大学、関東学院大学非常勤講師を歴任。
現在、大阪芸術大学客員教授。日本写真家協会会員。ニコールクラブ顧問。

《著書》 1989年 「Wonderland -1980~1989」
2001年 「遠い夏」
2004年 「下町純情カメラ」
2008年 「東京手帖」
2008年 「Wonderland」
2015年 「昭和下町カメラノート」ほか多数

《受賞》 1985年 第22回太陽賞
1993年 第18回木村伊兵衛写真賞
1993年 江戸川区文化奨励賞

●藤森 武（ふじもり・たけし）（第13回～）

《略歴》

1942年（昭和17年）東京都生まれ。
1961年 東京写真短期大学（現、東京工芸大学）入学。
1962年 写真家土門拳に師事。
1967年 凸版印刷㈱写真部入社。
1970年 フリーランサーとなる。

現在、日本写真家協会会員、日本写真芸術学会会員、
公益財団法人土門拳記念館学芸担当理事。

《著書》 1976年 写真集「独楽・熊谷守一の世界」（講談社）
1985年 写真集「秘仏十一面観音」（平凡社）
1998年 「隠れた仏たち」全5巻（東京美術）
1999年 「信楽古壺大成」（小学館）
2001年 「鉦彫 荒彫 謎の木彫仏」（玉川大学出版部）
2003年 「日本の観音像」（小学館）
2005年 「仏都会津・祈りの里の仏たち」（福島民報社）
2009年 「丹波の名陶」（求龍堂）
2012年 別冊太陽「みちのくの仏像」（平凡社）
2016年 「我が師、おやじ・土門拳」（朝日新聞出版）ほか多数

酒田市土門拳文化賞受賞者一覧表

区分	土門拳文化賞	作品解説	土門拳文化賞奨励賞
第1回平成6年度	●鹿野 晴男 (宮城県仙台市：45歳) 「都市近郊水田」 カラー30枚組	仙台市内の水田を撮影し続け、農村の都市化という問題を真正面からとらえた作品	●大木 貞吉 (東京都練馬区：57歳) ●金井 道子 (山口県下松市：51歳) ●佐藤 広志 (酒田市北千日町：23歳) 「人間模様」 カラー27枚組 「高度成長と其の狭間の中で」 カラー30枚組 「1994年・夏。」モノクロ30枚組
第2回平成7年度	●門脇 徹 (埼玉県大宮市：31歳) 東根市出身 「ムラの断片景」 カラー30枚組	都市化の波の中で、変化して行く「ムラ」を独断的にとらえた作品	●大洞 東平 (東京都調布市：65歳) ●宮島 功 (長野県飯田市：55歳) ●黒瀬輝智志 (東京都中央区：29歳) ●中村 邦夫 (福島県三春町：46歳) 「銃を持たされた農民たち」モノクロ30枚組 「雑木林」 カラー30枚組 「ヒロシマ・スケッチ」モノクロ28枚組 「三春に生きる」モノクロ30枚組
第3回平成8年度	●むろはし くこえ (千葉県我孫子市：54歳) 「花の金曜日」モノクロ30枚組	女性の時代に象徴される現代の日本の一面を、女性の目にとらえた作品	●阿美 信夫 (栃木県宇都宮市：72歳) ●津田美佐子 (広島県広島市：45歳) ●前田 一朗 (大阪府東大阪市：49歳) 「銅山の町足尾」モノクロ30枚組 「段原再開発に向けて」 カラー22枚組 「視感都市」モノクロ30枚組
第4回平成9年度	●新地 ヒサアキ (長崎県大村市：48歳) 「ソルジェ、十八歳」モノクロ30枚組	障害を持って生まれたオカガ子をつえ、家族のさすなを新しい感覚で表現した作品	●櫻井 智子 (兵庫県川西市：57歳) ●三井 俊樹 (沖縄県那覇市：24歳) ●辰本 実 (広島県広島市：30歳) 「しあわせの日々」 カラー30枚組 「晴 (ハル) という名の心」 カラー18枚組 「命敵」モノクロ12枚組
第5回平成10年度	●武田 孝巳 (東京都練馬区：45歳) 山辺町出身 「新宿・カオスの断章」モノクロ30枚組	新宿の混雑の中に世紀末を迎えた日本の現状をつえ、独自の視点をもって表現した作品	●太田 昭生 (香川県土庄町：48歳) ●黒崎 晴生 (長崎県長崎市：64歳) 「魂の島・大島 へらい予防法廃止後の今へ」モノクロ30枚組 「閉ざされた海 へ諫早湾干潟へ」モノクロ30枚組
第6回平成11年度	●戸矢 洋栄 (埼玉県上里町：29歳) 「妖精の詩 へ普遍的リアリズムを追い求めてへ」 カラー30枚組 ●中谷 晴男 (神奈川県横浜市：68歳) 「輪廻転生 シンヴァア神のみもとに」モノクロ30枚組	夜の街の光と影が割り出す世界を独自の感性で切り取った作品 カトマンズの社会福祉センターに住む人々の行き様を真正面から捉えた作品	●池田 勲 (酒田市若浜町：69歳) ●多々良菜里 (静岡県静岡市：30歳) 「きたぐにの四季」 カラー30枚組 「松下君の山田錦」 カラー30枚組
第7回平成12年度	●寺崎 知水 (沖縄県下地町：25歳) 「生きる」 カラー28枚組	思い悩む心の中を自身の生活空間を撮ることで表現し、生きていることの意味を問いかける作品	●高木サダ子 (福島県いわき市：53歳) ●南島 孝 (長野県飯田市：50歳) ●飯野 高拓 (酒田市亀ヶ崎：18歳) 「知床・羅臼」 カラー30枚組 「遠 (おん) の断章」 カラー30枚組 「想い出の通り道」モノクロ30枚組
第8回平成13年度	●山頭 範之 (北海道帯広市：27歳) 「October 7 - アフガニスタンの歌-」モノクロ30枚組	アフガニスタンの「今」を、民衆の生活を中心に写し撮り、混沌とした時代の中にあっても逞しく生きている人びとの思いを映し出した作品	●板垣 徳市 (山形県鶴岡市：54歳) ●田村 睦夫 (東京都葛飾区：72歳) ●大西 正昭 (佐賀県唐津市：48歳) 「20世紀繁栄の礎 (庄内に僅かに残る炭山・鉱山の面影)」 カラー・モノクロ30枚組 「人生 (あがみ) と心象」 カラー・モノクロ30枚組 「まなざしの向こうに」 カラー30枚組
第9回平成14年度	●高木 サダ子 (福島県いわき市：55歳) 「高木家の肖像 そして一年が流れて」 カラー30枚組	ごく平凡な家庭の日常を、非常に鮮やかな視線で写し撮り、普遍的な日本の家族の姿を魅力的に表現した作品。	●白畑 晋 (山形県酒田市：69歳) ●長 洋弘 (埼玉県吉見町：55歳) ●福田 雅宏 (長崎県大村市：27歳) 「砂丘地に生きる」 カラー・モノクロ30枚組 「コーランの国から」 カラー30枚組 「諫早干拓一再生への道標」モノクロ30枚組

区分	土門拳文化賞	作品解説	土門拳文化賞奨励賞
第10回 平成 15年度	●平井 純 (東京都青梅市：69歳) 「哀愁の町 ～西新宿5丁目界隈～」モノクロ30枚組	ビルの立ち並ぶなかに、わずかに残る町の残影を捉え、日々移り変わっていく東京の街の姿をみごとに表現した作品。	●矢萩 和幸 (山形県山形市：40歳) 「ユウキとたくや」 カラー28枚組 ●坂巻ちざ子 (千葉県栄町：65歳) カラー30枚組 ●大淵 正義 (大阪府藤井寺市：22歳) 「Face to Face」モノクロ30枚組
第11回 平成 16年度	●立岡 秀之 (三重県松阪市：51歳) 「ゴミ捨て場に生きる子供たち」モノクロ30枚組	カンボジアの首都プノンペンの中のゴミ捨て場で、厳しい環境の中、逞しく生きていく子供たちの眼差しに明日への希望を託した作品。	●永富 雪子 (埼玉県三郷市：56歳) 「なんでもないことのように」 カラー30枚組 ●松波 康男 (愛知県名古屋市中区：25歳) 「エチオピアの子どもたち」モノクロ30枚組 ●柴田秀一郎 (東京都練馬区：41歳) 「標(しるべ) ～バス停～」モノクロ30枚組
第12回 平成 17年度	●山下 昭 (静岡県浜松市：69歳) 「ゆめの腕 (わきのうで) に」モノクロ30枚組	特技隊員として戦死した美兄と、60年間わが子への哀惜を抱き續けて逝った美母への追慕を視覚化したドキュメント作品。	●松本 鶴子 (山形県酒田市：61歳) 「黒森歌舞伎の記録」 カラー30枚組 ●阿部千佳子 (神奈川県相模原市：29歳) 「種子の時間」モノクロ30枚組 ●東 ひろみ (岐阜県美濃加茂市：38歳) 「ルーマニアン・ラブソング」 カラー30枚組
第13回 平成 18年度	●セイリー青緒 (静岡県伊豆の国市：36歳) 「甘い地獄」モノクロ30枚組	豊かさや自由の象徴といえるハリウッドに顕在化する影の部分に鋭い眼差しを向け、独自のカメラテクニックで切り取った作品。	●荒 多恵子 (東京都世田谷区：43歳) 「胸神(muma kami) 一乳がなんになった日から」 カラー・モノクロ30枚組 ●佐藤 昭夫 (山形県酒田市：77歳) 「私のまちのあるとき」モノクロ30枚組 ●鎌田 勉 (秋田県秋田市：39歳) 「つながり ～西メボンの子どもたち～」 カラー30枚組
第14回 平成 19年度	●奥田 彰人 (東京都中野区：35歳) 「HAPPY PEOPLE」 カラー・モノクロ30枚組	水害中の人々をモチーフに、負の遺産から立ち直る人々の笑顔や日常の営みをその人の言葉とともに表現した作品。	●高塚 陽一 (神奈川県相模原市：45歳) 「路上の賢人」 カラー30枚組 ●田村淳一郎 (岩手県岩手町：70歳) 「昭和の農村」モノクロ30枚組 ●青島千恵子 (静岡県浜松市：68歳) 「光る音：IVデリー編(インド)」モノクロ30枚組
第15回 平成 20年度	●船崎 由美 (東京都杉並区：42歳) 「gifted 一誰かが誰かを思うこと」モノクロ30枚組	知的障がい者とのふれあいを通じて彼らの自然な姿を温かい眼差しで表現した作品。	●劉 哈峰 (福岡県福岡市：38歳) 「旅順の中の日本 1905-1945年」モノクロ30枚組 ●徳平 尚彦 (兵庫県神戸市：44歳) 「限界都市」 カラー30枚組 ●氏家 国浩 (宮城県大崎市：42歳) 「慈悲の花」 カラー30枚組
第16回 平成 21年度	●三栖 幸生 (神奈川県厚木市：64歳) 「時景 一とさげし」モノクロ30枚組	東京近郊の急激な変貌を20年にわたり追いつき、斬新なカメラワークで視覚化した作品。	●堀江 征夫 (岐阜県岐阜市：66歳) 「海と里の記憶 (日本海沿岸と山里の暮らし)」モノクロ30枚組 ●八木 正司 (岐阜県岐阜市：75歳) 「文楽伝承 岐阜・真桑文楽」モノクロ30枚組 ●木村 靖子 (大阪府豊能町：70歳) 「消え去る まち」 カラー25枚組
第17回 平成 22年度	●市川 恵美 (静岡県浜松市：63歳) 「うらうへ」 カラー30枚組	生命の源泉である「水」をキーワードに人間存在の明と暗を見事に視覚化した作品。	●久保 正彦 (東京都練馬区：41歳) 「その先に見えるもの」モノクロ30枚組 ●石津 武史 (奈良県王寺町：67歳) 「一片(ひとかけら)の鱗(うろこ) (漂着の街)」 カラー30枚組
第18回 平成 23年度	●高橋 ぎいち (神奈川県相模原市：63歳) 「芦川一高齡・過疎の集落でー文明社会における芦川住民の精神性」 カラー30枚組	人間が生きるとは何か。今、日本が抱えている人口減少と高齢化、過疎化を山梨県・芦川集落(笛吹市)にスポットを当て10年間を記録した作品。	●木村 ハル (千葉県白井市：52歳) 「裏庭」 カラー・モノクロ混合30枚組 ●保科 宗玄 (東京都港区：55歳) 「京島(空間)」 カラー30枚組 ●秋山 武雄 (東京都台東区：74歳) 「昭和三十年代、陰、閉じれば東京セピア」モノクロ30枚組

区分	土門拳文化賞	作品解説	土門拳文化賞奨励賞
第19回 平成 24年度	●小林 勝利 (高知県高知市：71歳) 「仁淀川遊行」 モノクロ30枚組	人間の仕合せの原点は何なのか、激変していく仁淀川上流域の集落にスポットを当て、30数年こわつたって記録した作品。	●大角 勝 (静岡県静岡市：61歳) ●佐藤 一旭 (福島県福島市：72歳) ●鈴木 純平 (千葉県八千代市：39歳) 「濡れる空蟬」モノクロ30枚組 「復興の進まぬ故郷を愛う」カラ・モノクロ30枚組 「コスモス 母のまなざし」カラ・モノクロ29枚組
第20回 平成 25年度	●山本 眞弓 (奈良県奈良市：73歳) 「風の民」 モノクロ30枚組	不法地帯に暮らし、雑草のように「生きていく」人々の生活を、研ぎ澄まされた心の目で記録した作品。	●森島 輝雄 (大阪府茨木市：77歳) ●中村 明弘 (静岡県静岡市：67歳) ●内山真衣子 (埼玉県白岡市：35歳) 「運河彷徨」モノクロ25枚組 「風光るとき」カラ・モノクロ30枚組 「北京ロマンチカ」カラ・モノクロ30枚組
第21回 平成 26年度	●坂巻 ちず子 (千葉県栄町：76歳) 「フアールボール」 カラ・モノクロ30枚組	高校球児を撮影し続ける中で、球児たちの人間性までを洞察し、球児たちが追いかける「心と物」を追求した作品。	●奥田 恭子 (神奈川県横浜浜市：68歳) ●鈴木 渉 (埼玉県入間市：62歳) ●宮本 遼 (神奈川県藤沢市：31歳) 「バンブーラヂェシユに生きる」カラ・モノクロ30枚組 「鎮魂として再生への祈り 一福島、大地の祭りー」カラ・モノクロ30枚組 「女影」モノクロ30枚組
第22回 平成 27年度	●芦田 英次 (京都府京都市：81歳) 「『野生魂』最後の記録」 カラ・モノクロ30枚組	エチオピア奥地に住み、自然との共生を続けていた少数民族の原始生活と、急激に起こった生活革命の様を記録した作品。	●和田 マサ子 (岐阜県各務原市：67歳) ●齋藤 和男 (神奈川県相模原市：81歳) ●海老名 和雄 (宮城県仙台市：72歳) 「声がきこえる」モノクロ30枚組 「老老の記」モノクロ30枚組 「産土 (うぶすな) と震災」モノクロ30枚組
第23回 平成 28年度	●ストラーン 久美子 (神奈川県横須賀市：61歳) 「横須賀ブルー ベルリ164年目の再上陸を想起する」カラ・モノクロ30枚	1853年のアメリカ使節ペリー艦隊の来航と日米和親条約の締結という大きなテーマの今を横須賀周辺で映像化。写真の実在性やリアリティにあふれた作品。	●高田 啓一 (鳥取県鳥取市：68歳) ●上出 優之利 (東京都新宿区：54歳) ●岡田 治 (千葉県山田市：57歳) 「現在を生きる」モノクロ30枚 「モノクロのブルース」モノクロ30枚 「お良さん」カラ・モノクロ30枚



平成 29 年 2 月 6 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

旧割烹小幡の安全対策などについて

旧割烹小幡洋館の瓦の一部の落下や外壁の剥離など老朽化が進んでおり、安全対策として、飛散防止のネット敷設の対策を講じます。

◆ポイント

○強風被害により旧割烹小幡洋館の瓦の一部や外壁の一部が剥離しました。外壁については、被害の拡大、建物の腐食が進む恐れがあることから、板金で塞ぐ修繕を行いました。

○1月初旬に洋館トイレの屋根の一部が破損しました。

○安全対策工事（案）

【工事内容】

- ① 洋館の屋根及び外壁に飛散防止用のネット敷設工事を行います。
- ② 洋館トイレの屋根の補修を行います。

●お問い合わせ／観光振興課観光交流係／庄司

TEL 26-5759、FAX 22-3910

Eメール kankou@city.sakata.lg.jp



平成 28 年 2 月 6 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

酒田市十里塚風力発電事業（仮称）に係る 環境影響評価準備書を縦覧します

このたび、本市が計画する風力発電事業に係る環境影響評価の調査・予測・評価の内容や結果を取りまとめた「環境影響評価書準備書」を公告・縦覧します。

【公告・縦覧】

- 公 告／2月16日号市広報に掲載
- 縦覧期間／2月21日（火）～3月22日（水）
（意見受付は4月5日（水）まで）
- 縦覧場所／市政推進課、市役所行政情報閲覧コーナー（2階）、市環境衛生課（広栄町）、八幡総合支所、松山総合支所、平田総合支所、市ホームページにも掲載

【説明会】

- 日 時／3月5日（日）午後1時30分
- 場 所／酒田市公益研修センター 中研修室（飯森山三丁目）

お問い合わせ／

政策推進課地方創生推進係 小林正巳

TEL 26-5704、FAX 26-3688

Eメール seisaku@city.sakata.lg.jp



平成 28 年 2 月 6 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

白崎資金酒田市スポーツ優秀選手表彰式を開催します

このたび、標記表彰式を開催します。

つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

◆ポイント

○白崎資金とは

かつて中町二丁目において外科医院を開業された白崎重弥先生のご好意により設けられたものである。昭和 55 年から先生のご意志に基づき、酒田駐車ビルの土地に係る収益をあてて運営している白崎資金により、毎年本市スポーツ優秀選手を表彰している。

今年度も小中学校および各競技団体より推薦いただいた選手の競技成績について審査し、受賞者を決定している。

○日時／2月18日（土）午前10時～11時（予定）

○場所／酒田市公益研修センター ホール

○対象／一般2人、大学生1人、高校生3人、中学生9人、小学生90人
計105人（1月26日現在）

○内容／表彰規定

※各区分における優勝者またはオリンピックなどの世界大会出場者

- ・高校生・大学生・一般は全国大会以上
- ・中学生は東北大会以上
- ・小学生は県大会以上

●お問い合わせ／

スポーツ振興課スポーツ振興係 乙坂哲也

TEL 43-6651、FAX 31-5232

Eメール sports@city.sakata.lg.jp



平成 29 年 2 月 6 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

株式会社 A N A 総合研究所との連携 「酒田マルシェ」を開催します

このたび、(株)ANA総合研究所と連携し、「酒田マルシェ」を下記のとおり開催します。

つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

◆ポイント

- 都内で、酒田市の伝統行事・芸能の紹介や特産品のPRを行う。
- 「酒田雛街道」の開催を前に、日本三大つるし飾りである「傘福」と啓翁桜を都内の会場に展示し、雪国、酒田から一足早い春の訪れを知らせ、酒田市への誘客を図る。

- 日 時／2月21日(火) 午前11時～午後7時
- 場 所／霞が関ビルロビー階(東京都千代田区霞が関三丁目2-5)
- 内 容／傘福(最大クラス)の展示、啓翁桜の展示、特産品の販売(つや姫、地酒、酒田のラーメン等)、市長トップセールス、酒田舞娘の演舞
- 参加企業／(一社)酒田観光物産協会、酒田米菓(株)、(株)大泉
- タイムスケジュール／
 - 【傘福展示】2月14日(火)～21日(火)
 - 【啓翁桜展示】2月20日(月)～21日(火)
 - 【酒田マルシェ】2月21日(火)
 - ① 物産品販売 午前11時～午後7時
 - ② 酒田舞娘演舞 午後0時15分～40分
 - ③ 市長トップセールス 午後0時40分～1時
- その他／①市長は、全日本空輸(株)、(株)ANA総合研究所、ANAセールス(株)等への表敬訪問も予定
- ②2月22日(水)はANA羽田事業所内での特産品のPRも実施

【お問い合わせ】

酒田市商工観光部 観光振興課 観光交流係
主任 柿崎則子
Tel 26-5759、FAX 22-3910



平成 29 年 2 月 6 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

酒の酒田の酒まつり特別企画「雛バル」を開催します

このたび、酒の酒田の酒まつり特別企画「雛バル」を下記の通り開催します。
つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

◆ポイント

- 酒田・遊佐 9 蔵（※）の地酒の良さを地域内外に P R するとともに、
観光資源として確立させるため
（※）菊勇（株）（菊勇）、（株）オードヴィ庄内（清泉川）、酒田酒造（株）（上喜元）、楯の川酒造（株）
（楯野川）、東北銘醸（株）（初孫）、麓井酒造（株）（麓井）、松山酒造（株）（秘めごと）、
杉勇蔵岡酒造場（杉勇）、高橋酒造店（東北泉）
- 地酒をテーマにした「街バル」イベントを開催する。

- 主 催／酒の酒田実行委員会 会長 佐藤貴夫
- 期 間／2 月 10 日（金）～18 日（土）
- 会 場／駅前・中町エリア周辺
- 参加飲食店／29 店舗（別添チラシをご参照ください）
- チケット代／前売り 3,300 円、期間中 3,500 円（4 枚綴）
- 雛バルセット／日本酒＋料理 1 品程度（1,000 円相当）
- チケット販売箇所／協賛飲食店（一部）、酒田小売酒販組合加盟酒店、酒田商
工会議所、酒田ふれあい商工会（本所、八幡支所、松山支所）、
（一社）酒田観光物産協会、山居倉庫酒田夢の倶楽、セブ
ンイレブン酒田本町三丁目店、木川屋（本店、みなと市場店、
山居館店）、酒田市役所地下売店、酒田市観光振興課
- そ の 他／チケットはタクシーチケットとしても利用可能
詳細は別添のチラシをご覧ください。



【お問い合わせ】

酒の酒田実行委員会事務局
酒田市商工観光部 観光振興課 観光企画係
主事 小山 薫
Tel 26-5759、FAX 22-3910

平成 29 年 2 月 6 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

酒田市観光ポスターが完成しました

このたび、酒田市の観光ポスターが出来上がりました。今年のポスターのテーマは「酒田のラーメン」です。

つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

◆ポイント

- 毎年、本市を広く全国にPRするため、観光ポスターを作成しています。
- 今回のポスターは、「酒田のラーメン」をテーマに、酒田市長自らが、愛してやまない酒田の味をPRします。

- 主な配布先／東京吉祥寺テラス、首都圏アンテナショップ、県内主要観光施設、市内ラーメン店ほか
今後各地で行われる観光PR、物産展などで掲示する予定です



●お問い合わせ／観光振興課観光企画係／佐藤千尋
Tel 26-5759、FAX 22-3910
Eメール kankou@city.sakata.lg.jp

酒田のラーメン

とび魚が醸し出す
酒田の香り...

さかた
酒田のラーメン自家製麺率
山形県ラーメン消費率
日本一

この味、
この味♪

市長！二杯目

いっっちゃいますか？



実際、撮影時に二杯完食した
山形県酒田市
ラーメン大好き市長

丸山至

美味しいラーメン食べ来での
山形県酒田市

酒田市観光振興課 TEL.0234-26-5759

酒田さんぽ

検索

